

## アカデミー推進計画に関する実態調査 総評

「アカデミー推進計画に関する実態調査」は、区内在住の20歳以上の約2,000名を対象として、平成26年10月に実施しました。

### 調査結果からみられる現状

スポーツ・文化芸術に関しては、多くの人々がすでに取り組んでいますが、一方で生涯学習は学習意欲がある人が多いにもかかわらず活動できていない状況です。これら3つの分野における活動の担い手や支援者はそれほど多くはありません。

観光に関しては、区のPRや商業・経済の活性化が期待されているなかで、観光ボランティアの育成や環境整備など、まちあるきに関する取組が求められています。

国際交流に関しては、外国人との交流に関心のある人が多く、外国人との共生や観光の受入に対しても積極的です。

#### (1)生涯学習分野

- ・過去1年に生涯学習に参加した人は全体の4割弱で、参加したくてもできなかった人が約4割となっています。生涯学習に参加する動機は、講義内容への関心や有用性に惹かれることが多いことが分かりました。
- ・地域アカデミーが設置されている地域では施設利用が多くなっており、場所の確保は学習活動につながっていると言えます。
- ・参加できなかった理由のうち、施策に関わるものでは、興味のある催しがないことや情報が得られなかったことが理由として挙げられていました。
- ・社会教育法にも記されている「学習成果を活かした活動」に関しては、それほど多くはなされておらず、活かしたいと思いつつも機会がない人が約3割います。

#### (2)スポーツ分野

- ・7割強の人が過去1年間に何らかのスポーツを行っています。国が示すスポーツ実施率(週1回以上スポーツを行う人の割合)は38.4%となっており、東京都よりも低くなっています。
- ・スポーツを行う動機は、健康に関わるもののほか、趣味や交流、美容が見られました。
- ・スポーツの観戦状況は、過去1年間で自宅以外で観戦したことがある人は約3割で、スポーツ観戦には積極的でないことがうかがえます。
- ・スポーツボランティアは8割弱の人が取り組んだことがなく、ボランティアについてもあまり積極的でないことが分かりました。
- ・障害者スポーツに対する理解は総じて高いです。
- ・区によるスポーツ振興に対してはハード整備に関する要望がみられました。

#### (3)文化芸術分野

- ・過去1年に何らかの文化芸術を鑑賞した人は約8割に上り、多くの人々が文化芸術の鑑賞に関心を持っています。鑑賞の動機は、プログラムの内容が最も多く見られました。
- ・多くの人々が鑑賞しているのに対して、文化芸術に関する活動をしたことのある人は約2割にとどまりました。

#### (4) 観光分野

- ・文京区の観光資源としては、庭園・公園、史跡・旧跡等の歴史的な建造物のほか、文京区ゆかりの文人も観光資源として認識されています。具体的には谷根千、六義園、湯島天満宮、東京大学、小石川後樂園、根津神社が多く挙げられています。
- ・観光への期待は、文京区のイメージアップが多く、次いで区内商業・サービス業の活性化やにぎわい創出等の区内経済活動への期待が多く見られました。
- ・区による観光振興に対しては文京区の埋もれた魅力の発見・活用が最も多く挙げられていました。その他、まちを歩いて楽しめる環境づくりや観光ガイド等の人材育成といったまちあるきに関連した取り組みが求められています。

#### (5) 国際交流分野

- ・8割強の人が外国に行ったことがあり、3割弱の人が外国人と交流しています。
- ・交流したくてもできない人が半数おり、外国人と交流するイベントや異文化理解のための講座の開催が求められています。
- ・区内に外国人居住者が観光客が増えることに対しては、懸念よりも期待感が上回っており、特に異文化交流や国際感覚の高揚が期待されています。
- ・外国人との共生のためには、区に対して交流機会をつくることで共生に向けたきっかけづくりが求められているとともに、外国人への生活サポートが求められています。